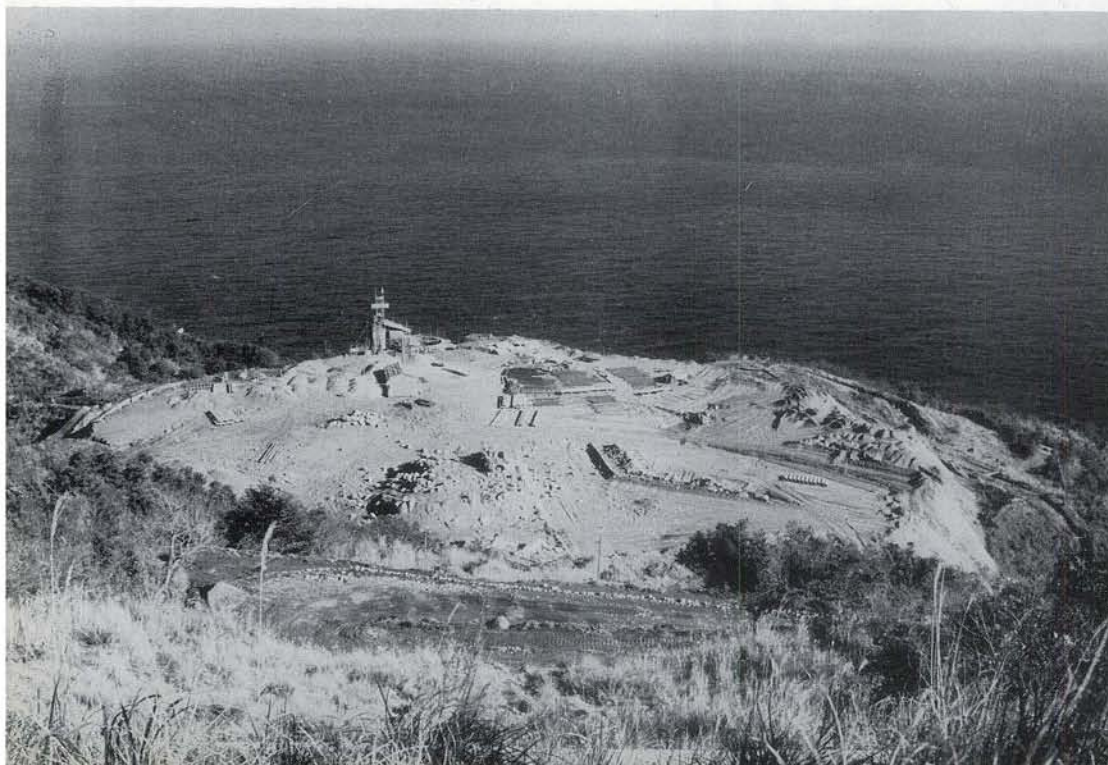


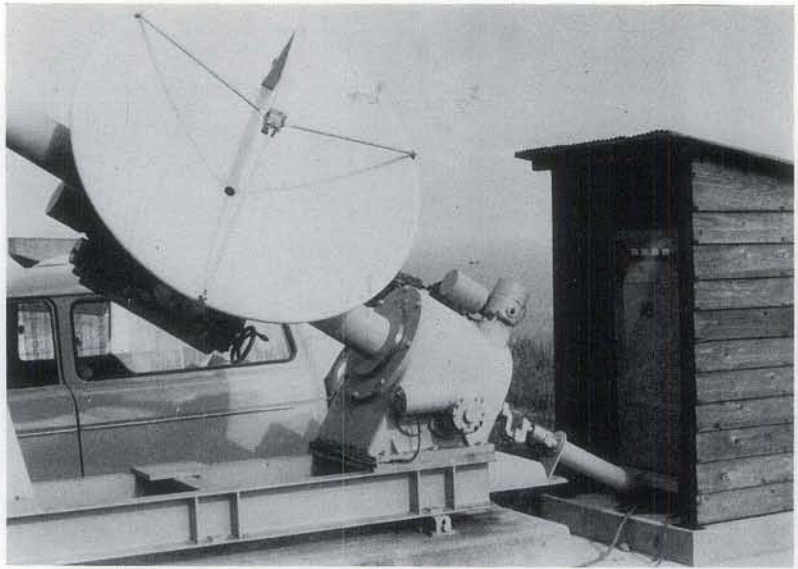


内之浦 いまむかし

- ▲ 本誌記事「内之浦のおもいで」に書かれている頃の岸良—長坪間バス道路，今は東京大学鹿児島宇宙空間観測所の種々の建物を結ぶ道路としても使われている

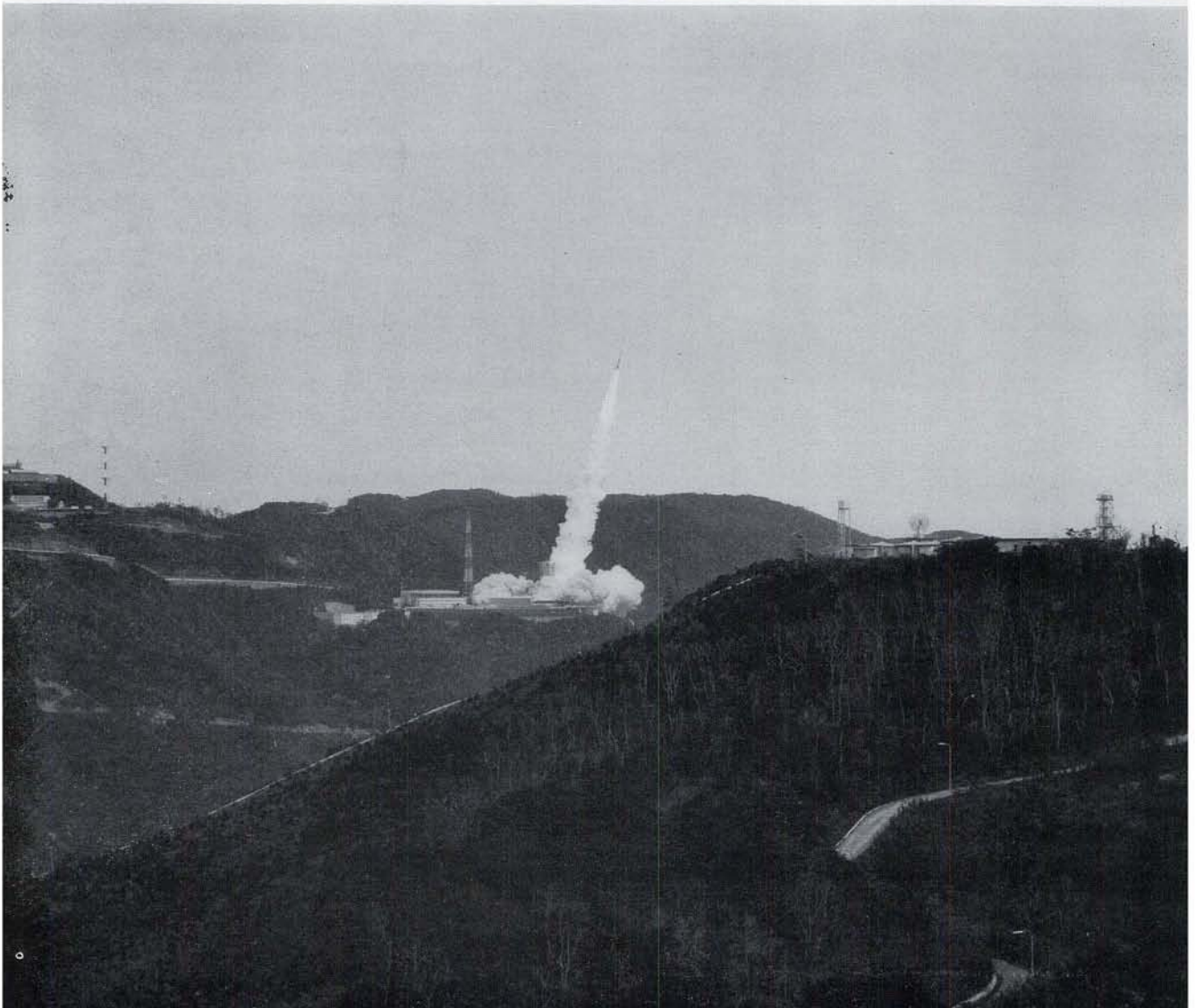
- ▼ ミュー型ロケット打上げ基地の建設風景（昭和40年頃）





▲ 宇宙空間の観測に必要な太陽活動をモニターするためにもうけられた
全自動 5 GHz 太陽電波強度受信装置

▼ 昭和 46 年 9 月 28 日「しんせい」打上げの瞬間



小笠原父島における夜間大気光観測

父島北端の岬の上にある通称ウェザーステーションの敷地を借用して東京天文台測光部により夜光観測が行なわれた。

▶ 準備中の夜光分光器

シュミット型分光器で子午面上の夜光スペクトルを16mmフィルム上に撮影するようになっており、長尺フィルムが使用出来る。

▼ 調整中の夜光掃天装置

全天を16方位に分割し、各方位毎天頂を含め6定点を各点6色の干渉フィルターで光電測光する。1掃天に約6分かかる。



▼ 今年3月、撤収前の記念写真、前面の鉄のカバー内に白く見えるのが、夜光掃天用の光電測光器、後方、気象用レーダードームの西側に白衣で包まれているのが夜光分光器。

